

笑顔と心をつなぐネットワーク 明社通信

2017年 **秋** 号

HEARTFUL

はーとふる

北海道・**帯広明社**

連載 『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』 活動紹介

シリーズ 地域の絆を再生する

第3回 未来を担う若い力が取り組む自転車イベント

—「会津磐梯 宝の山ファンライド2017」の開催

被災地レポート 「わすれない、いつまでも」

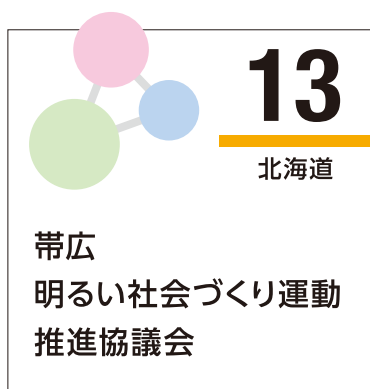
第14回 岩手県・特定非営利活動法人パクト

埼玉県・「おあがんなんしょ」実行委員会

連載

『これからの明るい社会づくり運動・3つの方針』

雄大な大地と澄んだ大空が広がる北海道帯広市——。人口16万7640人(2017年8月末日現在)の町に、道内で二番目に誕生した「おびひろ動物園」(昭和38年7月開園)があります。「帯広明るい社会づくり運動推進協議会」(河合正満会長／以下、帯広明社)がその動物園の清掃活動を始めて39年。人と人とのつながりを大切に、市民と共に歩んできた帯広明社の活動を紹介します。



※13は前回からの通し番号です。

「おびひろ動物園」は緑に囲まれた公園内にあり、市民の憩いの場として親しまれています。帯広明社が、その動物園の清掃活動を始めて39年。年を追うごとに参加者数も増えていき、本年4月に行われた清掃には640人の市民がボランティアとして参加しました。

毎年、この清掃活動を楽しみにしている人から「今年は、いつやりますか?」と問い合わせが入るほどです。しかも、当初はチラシを配布したり、さまざまな組織に呼びかけをしていましたが、恒例行事として知れわたった現在、地元の新聞社がお知らせを載せてくれるようになり、それを見た市内の中・高校生や短大生が参加を申し出てくれるようになりました。

また、帯広明社の副会長であり、シルバーセンターの所長を務める道見英徳さんが、同センターのメンバーに、「元気に社会貢献することは大事ですよ」と呼びかけたところ、毎年、100人以上の参加があるといえます。さらに、当日の清掃で落ち葉や枯れ木を拾い集めたゴミ袋を運搬するトラックを提供してくれる企業も出てきたのです。

そして、39年間の清掃活動を振り返り、「多くの仲間の人たちとここまでやってこられたことは、本当に有難かったと思います。喜びや感動をたくさんいただき、『人のため』と言っても、行き着くところは『自分のため』になっているのだと思います」と徳光睦男事務局長。清掃活動をしてきたことで、尊い宝をいただいたようだと思います。

「人生塾」の開催

帯広明社は、動物園の清掃活動と共に「フォローアップ事業」にも取り組んできました。そして現在、は、「人間性豊かな人づくり」の学び場である「人生塾」を開催し、広く市民にも呼びかけています。なかでも健康に関する講話には関心が高く、市内の総合病院の医師を務める難波清さんの講座を心待ちにしている人は少なくないといえます。

「わが家の孫たちは、トマトやオクラをはじめ



上・中／清掃活動に早朝より集まる大勢のボランティア
下／「人生塾」で講話をする難波医師。Dr.なんばシリーズ「あらゆる病気を防ぐ野菜と果物まるごとパワー」の著者でもあります



左から、砂川さん(全国明社理事長)、道見さん(副会長)、河合さん(会長)、難波さん(「人生塾」講師)、相馬さん(副会長)、徳光さん(事務局長)

では、なぜ、「清掃活動」が、長きにわたって継続することができたのでしょうか——。

「私は、全国明社理事長の砂川さんが、帯広市長時代からずっとゴミ拾いをしていた姿を見ていました。失礼だが、それは一種のパフォーマンスかと思ったこともありましたが。しかし、砂川さんは現職を退いてからもずっと続けていらっしやる。道端でゴソゴソしていると思ったら、砂川さんがゴミを拾っているんですよ。私は感動しました。動物園の清掃活動でも、市長が長靴に軍手で一緒にゴミ拾い作業をしている姿が市民の心を動かしたのでしよう。いまでは、市民の心をつなぐ交流の場となっているといってもよいと思います」

そう語るのは、帯広明社会長の河合正満さんです。また、相馬昇副会長は、こんな体験を語ってくれました。



酸っぱいものなど、大人がびっくりするようなものを嫌うことなく食べます。親が強制しているわけではありません。子どもは生きるために、本能的に親が与えるものをなんでも食べるんです。だから、甘い物やジャンクフードのようなものばかりを食べさせると、その味しかわからなくなり、親をはじめとする大人たちの、子どもに与える影響は大きいのです。明社活動も大人のうしろ姿を見せていくことで、若い世代が育ってくれるのだと思います。」

柔らかな口調で、ご自身の身近な話題をもとに、一人一人に語り掛けるように話す難波さんの講話に引き付けられ、参加者の誰もがうなずきながら真剣に耳を傾けています。こうした学びの場を提

未来を担う若い力が取り組む自転車イベント ——「会津磐梯 宝の山ファンライド2017」の開催——

磐梯山は、「万葉集」の中でも「会津嶺」と詠まれている日本百名山の一つです。その麓に広がる磐梯町は、四季折々の美しい風光明媚を楽しめるところです。この景色と地形を生かした自転車イベントを企画し、実施に取り組んでいるのが「会津磐梯 宝の山ファンライド」実行委員会です。住民主体の企画・運営のイベント開催に向かって準備を進めるなかで、若い世代の町民が仲間としての絆を深めています。

〈写真協力:「会津磐梯 宝の山ファンライド」実行委員会〉

夢の実現へ踏み出す



昨年6月、磐梯町では町の観光や活性化を図るためのワークショップ「磐梯町観光まちづくりワークショップ事業」を開催しました。そこでは、世代や職業が違う人たちが集まり、10年後の磐梯町をイメージしながら語り合い、最終日には一人一人が自分の考えた企画を発表しました。そのなかで、穴澤宏之さんが提案した「会津磐梯 宝の山ファンライド」は、多くの参加者の賛同を得たのです。

穴澤さんが、このイベントを提案した理由は、自分が自転車競技を趣味としていたからです。



8年前に職場の先輩である池田忠孝さんに自転車の魅力を教えられ、埼玉県の秩父や秋田県の鳥海山、神奈川県箱根などで開催されるロードレースや競技会に参加していました。その競技会に出場するために、磐梯山で練習を重ねていたのです。

しかし、穴澤さんの生まれ育った磐梯町は、磐梯山の麓に広がる斜面にあります。工場を作るのにも、畑を大きくするにも造成のための費用が莫大にかかるため、穴澤さんは暮らしぶらいつとどこだと思っていました。

ところが、自転車競技を始めてから、「自分の暮らす街は、他に引けをとらない素晴らしいところなのではないか。このコースを利用して何かできないか……」と考え続けていたのです。それをワークショップで発表したことで、地元の有志と実行することになったのです。

供しながら、市民と共に明るい社会づくりに取り組んでいます。

「提唱者の理念」を大切に

「現在、全国には県の協議会を含めて500以上の地区明社があります。地域の状況によって活動内容はさまざまですが、『共に歩んでいる』という連帯感を持ちつづけることができるのは、提唱と理念を踏まえているからです。帯広明社もこのことを大切に歩んできました」と砂川敏文さん（全国明社理事長）。



おびひろ動物園園長
柚原和敏さん

樹木が多い公園内の動物園には、多くの落ち葉が散りますが、雪が降りだした後は雪解けの季節を待たないと掃除ができません。しかも、雪解けから夏季営業が始まるまではわずかな期間しかなく、動物園の職員だけで清掃するのはとても困難です。しかし、帯広明社さんの呼びかけで、毎年、600人を超える市民の方々が清掃ボランティアにご参加くださり、わずか2時間できれいな動物園になります。市民の大切な動物園を市民のみなさまが支えてくださっていることを実感し、とても感謝しています。私ども職員は、いつまでも市民に愛される動物園の運営に努めさせていただきます。

「帯広明社」副会長、
茶道教授者
坂本芳美さん



誰もが「幸せになりたい」と願っていると思います。その願いを成就するためには、足元のささやかな実践をしていくことで、一步一步前に進んでいけることを明社運動で学びました。

元々、私は環境問題に関心があり、特に家庭で出た廃油のエネルギー再利用については、積極的に取り組ませていただきました。妻として、母として、そして一人の女性として、地域の方々と心をつなぎ合って、よりよい街づくりに努めたいと思います。

「人のために役立つことをしたい」「社会のために役立ちたい」「人に喜ばれたい」——そんな願いをもっている方々に社会貢献の場の提供できるよう、帯広明社は、今日も元気に取り組んでいます。



これからの明るい社会づくり運動・3つの方針

——2014年の『全国都道府県会議』で発表した、本運動がこれから目指していく具体的な3つの方針——

- 1 地域のために活動している諸団体と連携し一緒に活動を行い、身近な問題に取り組む市民運動として展開していく。
- 2 行政等の実施する地域活動や催事に積極的に参加し、行政との信頼関係を築いていく。
- 3 地域に合ったさまざまな活動をきっかけに、地域社会に貢献したいという願いをもった個人・団体へ積極的に呼びかけ、善意の実践の場を提供していく。

これら方針に基づく活動を今後も紹介していきます。